令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目１	学校教育目標の設定・共有	
現　状	昨年度の自己評価はＢ（７９．５％）であった。	
評価指標	全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。	
達成目標 (数値目標)	・教職員と生徒との信頼関係確立。 ・規律と秩序の遵守。 ・全ての生徒の希望進路の実現。	
実際の取り組み状況	**「全体方針・ビジョン」及び各分掌の「具体的目標」にしたがって、検証と改善の計画実施を促した。**	
自 己 評 価	**B** **（64．0%）**	〔反省・意見〕 ・各部署で意識して指導しているが、その効果の確認が難しい。また、教職員のモラル改善も必要である。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 教師と生徒の基本的な人間関係は良好であるが、ぬるま湯的になっているようにも見える。学校を取り巻く環境の変化は激しいが、それに対応した教育目標の設定がなされているのか、見直す必要を感じる。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	本校がどのような教育に力を入れていこうとするのかを再確認し、教職員が共有し、一体となって指導を行っていくことが必要である。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目２	組織の充実・校務分掌の明確化	
現　状	昨年度の自己評価はＢ（７０．９％）であった。	
評価指標	・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。	
達成目標 (数値目標)	・各分掌の円滑な連携。 ・常に改善を念頭にして業務を行う。	
実際の取り組み状況	**各分掌間で協力して業務を行った。**	
自 己 評 価	**B** **（62．0%）**	〔反省・意見〕 ・連携については、コミュニケーション不足があり、引き継ぎがうまくいっていないこともある。負担が大きい業務については、複数の人で対処する。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 以前より課題となっている業務の偏りについては、まだまだ改善の余地があるように思われる。国の働き方改革や教育DXなどを参考にして、改善に取り組んでほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	１つの業務を１人が担当するのではなく、１つの業務を複数の人が担当する体制を構築したい。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目３	学年・学級運営の充実	
現　状	昨年度の自己評価はＢ（８３．５％）であった。	
評価指標	学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。	
達成目標 （数値目標）	・定期的に学年情報交換会を行う。 ・定期的に学年集会を行う。 ・定期的に大掃除を行い、校内の美化に努めている。 ・２者面談、３者面談を１年にそれぞれ最低１回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記の項目について、検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**B** **（82．0%）**	〔反省・意見〕 ・学年内で情報交換をしながら、生徒指導に尽力している。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 新型コロナウイルスの対応等、学年学級経営に関して協力がこれまで以上に必要となった１年であったと想像される。この経験を活かし、担任だけでなくチームで生徒のケアができる体制をしっかりとつくっていってほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	各学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫を今後も続けたい。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目４	教育課程の円滑な推進	
現　状	昨年度の自己評価はＡ（８５．０％）であった。	
評価指標	各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。	
達成目標 （数値目標）	・授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より５％減ずる ・クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ・生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ・特進系は大学入試共通テストを、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ・中学校は中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記の項目について、検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**B** **（80．8%）**	〔反省・意見〕 ・推薦入試に向けて、自分の考えを文章にして、プレゼンできる力を育成する効果的な取り組みが必要である。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 新学習指導要領の実施が始まり、授業のあり方も大きく変えることが求められている。入試のあり方も今後変わることが予想されるが、教科を越えて学校全体で対応していくことが必要である。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	・新学習指導要領に基づいた各教科の円滑な指導。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目５	教科指導の充実	
現　状	昨年度の自己評価はＡ（９１．３％）であった。	
評価指標	生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。	
達成目標 (数値目標)	・授業評価アンケートの結果を年に１回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ・英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ・計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ・授業改善、アクティブラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記の項目について、検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**A** **（87．6%）**	〔反省・意見〕 ・各教員がＩＣＴを活用した授業改善を行った。また、ＩＣＴ研修会の機会が増えればよい。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 ＩＣＴ活用に関してはほぼ全員の教員が積極的に取り組んでいる。その一方で新学習指導要領のねらいを意識した活用はまだこれからである。ＩＣＴ活用だけでなく、これからの時代に求められる力を子どもたちにつけることをより強く意識して教科指導に取り組んでほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	授業改善のさらなる推進。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目６	生徒指導の充実	
現　状	昨年度の自己評価はＡ（８６．５％）であった。	
評価指標	・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。	
達成目標 （数値目標）	・遅刻者数１日１０以下、整容違反０。 ・挨拶指導、入室指導の徹底。 ・いじめ早期発見、早期指導、早期解決。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記項目について、検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**B** **（77．3%）**	〔反省・意見〕 ・「いじめ」防止対策について早期かつ組織的に対応できた。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 全教職員で共通理解を図り統一的な指導を目指していることは評価ができるが、昨年度と比べて自己評価が下がっていることが気になる。その原因は何かをしっかりと総括して来年度につなげてほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	素早く、きめ細かい対応を心がけたい。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目７	進路指導の充実	
現　状	昨年度の自己評価はＢ（７７．８％）であった。	
評価指標	・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。	
達成目標 (数値目標)	・卒業生の大学進学満足度８０％以上。 ・卒業生の専門学校進学満足度８０％以上。 ・卒業生の就職満足度８０％以上。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**B** **（77．8%）**	〔反省・意見〕 ・卒業生の満足度は高かったと思われるが、さらに指導して力をつけさせたい。また、クラッシーを利用して、宿題の徹底を図りたい。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 進路への満足度と学習への取り組みの実態に乖離があるように感じる。生徒の学習意欲や主体性を育てなければ、家庭学習へはつながらない。目先の進学指導ではなく、社会に目を向けた進路指導も意識してほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	大学入試共通テストの問題分析と対策と自分の考えをまとめ、プレゼンできる力の育成。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目８	家庭・地域との連携の推進	
現　状	昨年度の自己評価はＡ（９０．１％）であった。	
評価指標	日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。	
達成目標 (数値目標)	・学年通信を年間１０回以上発行する。 ・近隣中学校へ年２回以上訪問する。 ・文化祭の参観数が前回を超える。 ・オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ・ＰＴＡ総会の出席者数を把握する。 ・学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記項目について、検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**A** **（85．6%）**	〔反省・意見〕 ・年々改善しているが、オープンスクールの内容改善や学校の魅力を知ってもらうために、タイムリーな情報発信がもっと必要である。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**A**	〔意見・提言〕 学校全体で情報発信に対する意識が向上していると思われる。発信する情報の量だけでなく質を高めることを、来年度以降は意識してほしいと思う。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	オープンスクールの内容改善とタイムリーな情報発信の検討。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目９	省エネルギーの実行	
現　状	昨年度の自己評価はＡ（９２．１％）であった。	
評価指標	光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。	
達成目標 (数値目標)	・光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ・分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。** **事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。**	
自 己 評 価	**A** **（95．2）**	〔反省・意見〕 ・好スコアであるが、教職員がもっと率先して行うべきである。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言〕
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 省エネルギーについての取り組みがきちんと実行されているのは評価できる。来年度以降は、SDG’sの視点からも省エネルギーをとらえ直し、より広い視野で計画を立て直してほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	省エネの徹底。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

令和　４　年度　岩手中・高等学校　学校評価　結果報告書		
評価項目 １０	特別指導の充実　（中学校）	
現　状	昨年度の自己評価はＢ（８３．３％）であった。	
評価指標	様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。	
達成目標 （数値目標）	・体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ・講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が８５％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	**上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。**	
自 己 評 価	**B** **（79．6%）**	〔反省・意見〕 ・コロナ禍の中でも、通常よりも多くの体験活動が実施できた。
評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持にとどまった　Ｄ：現状より悪くなった		
学校関係者評価		〔意見・提言
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
第三者評価	**B**	〔意見・提言〕 コロナ禍の中で活動が制限される中、体験活動が実施できたことは評価できる。新学習指導要領をしっかりと意識し、経産省が提唱するサードプレースなど、これからの学校に求められる体験活動を企画してほしい。
評価基準　Ａ：達成したと認められる　Ｂ：ほぼ達成したと認められる　Ｃ：現状維持であると認められる Ｄ：現状より悪くなったと認められる		
次年度に向けての課題	置かれた状況で工夫しながら家庭と連携しての取り組み。	

自己評価の基準

ア　よくあてはまる　イ　ややあてはまる　ウ　あまりあてはまらない　エ　全くあてはまらない

Ａ　達成した　ア、イの合計が８５％以上
Ｂ　ほぼ達成した　ア、イの合計が６０％以上、８５％未満
Ｃ　現状維持にとどまった　ア、イの合計が４０％以上、６０％未満
Ｄ　現状より悪くなった　ア、イの合計が４０％未満

・自己評価は全教職員による。

・学校関係者評価は、ＰＴＡ役員（保護者）、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。

・第三者評価は、教育コンサルタント　大西　貞憲　氏による。